PHOENIX
68.10.5
哲学クラス斗争委
情宣村関紙
No.2

文自斗指導部による、評議会団交実現斗争の放棄を糾弾する！

学友諸君！われわれ哲学斗争委は、この間評議会団交を、正門バリケード、対理学部教授会団交をステップとし実現すべく、集会での発言、ビラ、ダイカンなど、あらゆる手段を用いて最大限の努力をなしてきた。このわれわれの斗争方針に対して、文自斗指導部は、いかなる大衆的運動を創造してきたのか。われらは「コミューン」紙上において、評議会団交を申し込むと称しながら、なんらこれを具体的になしていないのだ。われらは団交実現を目指すというポーズを示すことをなすだけで、斗争をなんら取り組まないという全くハレンチな策動をなしてきているのだ。先日、MKをはじめ大衆的団交拒否をつきつけられたにもかかわらず、頑固たる挑戦斗争を放棄したことを同時にのさばらせつつ、評議会団交、実現取り組まなかったわれらの行為を通じて許すことはできないばかりか、ますます現在の客観情勢は団交実現には極めて困難な状況にある。しかし、そういう状況を作り出しているのは、他でもない、団交実現への大衆的なる戦斗的運動を創出しようとしない、われら自身にあることをわれわれは明確につきだすものである。また、理教授会と理学部学友との団交実現へ向けての支援の斗争を放棄し、すべて理学部学友にまかせ、これは、理学部長の病気という、きったくやぶ的な理由だけ以外にもかかわらず、自らの痛苦な現実として主体的に受けとめず、抗議集会からももちえないという、われらのダラクを、哲学クラス斗争委は許すことはできない。

以上述べてきたように、文自斗指ド部のこの間の無方針状態な斗争をますますシカンした状態に落とし込めているのだということを確認するならば、われわれの運動の進め方の基本方針を若干提起しておこう。現在、われわれは運動を進めていく過程となすべきものは、再三述べてきたように評議会団交の追求であろう。文自斗指ド部は評議会団交を掲げつつも、それを具体化できなかった背後には、一部諸君のいう「国大供給線粉砕」というスローガンにおいて寮粉砕阻止斗争の焦点をボカされていったということもあるのだ。われわれは、そういった未熟なる戦術をするために早急に全学集会の処をもって評議会に団交を迫り、期日を区切って解答させること、こうしたことを当面追求すべきだと考える。ただ全学ストを実現すること、無期限ストを自己目的的に追求することなどになって、斗争の量的拡大のみを追求することはやめ、現在、文学部内に徐々に住み出されつつある、シカンした状態を、運動のダイナミックな展開によって、いかに克服していくのかということを問われなければならない。

本日の、理教授会団交拒否抗議・対評議会団交要求集会に結集せよ！（12時半 正門バリケード前 提起＝哲学斗争委）

この間の文自斗指導部の無為無策を弾劾しつつ、評議会に対し15日に大衆団交を開くことを要求し、その回答を11日までにさせる。当局の極秘弾圧策動を粉砕し団交拒否のあなつきには断固たる報復措置を訴えよう！

○○○○○○○○○○○○○